

周南市水素利活用協議会（第2回）議事要旨

（開催要領）

日 時：平成 25 年 11 月 27 日（木曜日）13 時 30 分～15 時 30 分

場 所：山口県周南総合庁舎 7 階会議室

出席者：

【会長】

稲葉 和也 山口大学 大学院 技術経営研究科 教授

【副会長】

牧野 俊昭 徳山工業高等専門学校 教授・テクノ・リフレッシュ教育センター長

【委員】

辻 克実	東ソー株式会社南陽事業所 参事
大森 一幸	株式会社トクヤマ徳山製造所 主席
西山 清	日新製鋼株式会社周南製鋼所 チームリーダー
磯永 義昭	日本ゼオン株式会社徳山工場 担当
日下 裕之	岩谷産業株式会社 ガス開発部 部長
谷 義勝	岩谷産業株式会社 ガス開発部 シニアマネージャー
八隅 定夫	岩谷産業株式会社 ガス開発部 シニアマネージャー
廣瀬 順之	岩谷産業株式会社 マネージャー
向井 淳雄	岩谷産業株式会社 山口支店長
山下 一夫	山田石油サービス株式会社 営業部長
吉本 修	周南近鉄タクシー株式会社 取締役 総務部長
兼石 隆規	防長交通株式会社 課長
吉川 浩二	株式会社豊田自動織機 技術企画室 主査
直井 和敏	トヨタ自動車株式会社 地域販売店室 担当課長
小木 誉之	本田技研工業株式会社 営業開発室ブロックリーダー
水戸部 典朗	マツダ株式会社 技術研究所 研究長
森本 賢治	マツダ株式会社 技術研究所 主幹研究員
小川 雅弘	東芝燃料電池システム株式会社 技術部 部長
谷口 博文	新南陽商工会議所 事務局長
佐伯 正文	徳山商工会議所 課長
有吉 一男	周南地場産業振興センター 専務理事
阿比留 彩子	経済産業省中国経済産業局 新エネルギー対策室 課長補佐
眞柳 秀人	山口県商工労働部新産業振興課 課長
池田 悟至	山口県商工労働部新産業振興課 主査
永田 明生	山口県産業戦略部 主査
磯部 佳成	山口県産業技術センター グループリーダー

石井 新也	周南市企画総務部防災危機管理課 課長
寺岡 裕信	周南市環境生活部環境政策課 主査
中村 研二	周南市経済産業部 部長
弘中 基之	周南市経済産業部 次長 兼 商工振興課長
中村 広忠	周南市商工振興課 主幹 兼 企業活動戦略室長
宮崎 正臣	周南市商工振興課 企業活動戦略室長補佐
花野 勝則	周南市商工振興課 企業活動戦略室 主査

(議事次第)

1. 開会
2. あいさつ
3. 自己紹介
4. 情報交換
 - (1) 「定置式燃料電池の最新動向」について
 - ・ 東芝燃料電池システム株式会社
 - (2) 「燃料電池フォークリフトの最新動向」について
 - ・ 株式会社豊田自動織機
 - (3) 「自動車メーカーの最新動向」について
 - ・ トヨタ自動車株式会社
 - ・ 本田技研工業株式会社
 - ・ マツダ株式会社
5. 協議事項
 - (1) 水素ステーション候補地について
 - (2) 周南市水素利活用構想（骨子案）について
 - (3) 中国経産局及び山口県（新産業振興課）報告事項について
 - (4) 周南市水素利活用基本計画策定（予定）について
 - (5) その他
6. 閉会

(配付資料)

- 資料 1 : 「燃料電池フォークリフトの最新動向」について
- 資料 2 : 水素ステーション候補地について
- 資料 3 : 周南市水素利活用構想（骨子案）
- 資料 4 : 平成26年度国の予算編成及び政策決定等に関する要望（山口県）
- 資料 5 : 水素利活用による産業振興について（山口県）
- 資料 6 : 水素・水素ビジネスについて（12/2工場見学会・講演会・交流会）
- 資料 7 : 水素関連26年度概算要求事業について（中国経産局）
- 資料 8 : TOYOTA FCV CONCEPT（第43回東京モーターショー）

(概要)

○開会挨拶

(会長) 現在、水素の活用についてスポットが当たっている。周南市は水素を造っている場所であり、水素が取れる場所である。山口県全体で考えると全国の10%を超える量の水素がある。現在は副生水素だが、20年後は水素を造るために他の製品を造っていることも考えられる。まずもって、そんな地域であることを認識する必要がある。この協議会では、この地域が水素エネルギーや再生可能エネルギーなどの世界の先進的なエネルギー利用地域となるようにしていきたいし、まちを発展させていきたいと思っている。

(情報交換)

○水素ステーション候補地について

(会長) それでは、事務局から候補地についての説明をお願いします。

(事務局) 本候補地については、地元説明会を3回開催し、地元の方への周知と一定の同意が得られたことから、候補地として決定したところです。候補地を日本全体の地図で見ますと国が主な候補地として指定しております4大都市圏（首都圏、中京圏、関西圏、北部九州圏）を結ぶ水素ハイウェイの線上に本市がございまして、関西圏から約420km、北部九州で福岡市から約190kmに位置しております。関西や北部九州の利用者にとっては、重要な位置にあると言え、充電場所に結びつくものと考えております。

次の資料では、県内と近県との関係を示しておりますが、先進地であります北九州市からは約100kmに位置しており、北九州市との観光や水素ビジネスの連携や需要が見込めるものと考えております。また、今後、広島県でも水素ステーションの設置の動きが出てくれば、広島からも約100kmとなり、東西の政令指定都市から約100kmの位置にございますので、その点からもFCVの利用者にとって利便性が高い位置にあたるものと考えております。また、山口県においても、山口県環境基本計画には、平成32年では水素ステーションを県内4か所設置する目標があることから、本市以外の場所に3か所のステーションが設置されましたら、県内の移動はより充実しまして、FCVの普及が進むものと考えております。また、山口宇部空港や岩国錦帯橋空港からは約60kmから70kmの位置にございます。FCバスやタクシー等による送迎等の需要も考えられます。いずれにしても当ステーションの稼働率及び需要を増加させるためには、4大都市圏、近県都市、県内の地域と連携をしながら進めていかなければならないと考えております。

次の資料では、周南市と周辺という視点で示しておりますが、候補地は周南市で考えると東の位置になるが、下松市などを含めた周南地域として考えると同じ生活圏の中の中心に位置していることが分かります。

次の資料で見ますと、圧縮水素の製造拠点、液か水素の製造拠点から近く、バス事業者様の本社や車庫からも近く、タクシー会社様のLPG供給拠点からも比較的近いことが分かります。

次の資料では、高速道路の徳山東インターチェンジから約2.5kmに位置していることがわかります。さらに櫛ヶ浜久米線が年度末に開通いたしますと、高速道路から約5分で結ばれるということで、高速道路から遠くない位置だということが分かります。

また、次の詳細資料によりますと、候補地の場所は、鼓海1丁目であり、約5000㎡、準工業地域となります。近くには支所や学校、市場、工場団地、商業団地があります。市としましては、市の企業用地として位置付けている当地を候補地として決定したところです。

(会長) 質問については最後にいただき、次の骨子案についての説明をお願いいたします。

○周南市水素利活用構想（骨子案）について

(事務局) 周南市の水素利活用構想の骨子案について御説明いたします。なお、周南市では今年度中の構想策定を目標としております。まず構想策定の背景でございます。1点目は化石燃料の枯渇の危険性、地球温暖化の深刻化の中で、水素エネルギーの利活用が注目され期待されているということ。

2点目は、国の日本再興戦略の中で、2030年にクリーンで経済的なエネルギー自給の実現を目指すことが言われており、スマートコミュニティの拡大や燃料電池技術開発、水素供給インフラの導入支援、燃料電池自動車にかかる規制の見直しなどの動きがございまして、支援についても加速している状況です。

3点目は山口県におきまして、やまぐち産業戦略推進計画において水素等の環境関連育成と集積戦略を掲げ、2015年には液化水素ステーションの設置、水素利活用による地域づくりを目標に掲げて取り組んでおります。

最後の4点目ですが、本市におきましても、周南市まちづくり総合計画の緊急プロジェクトとして、産業活性化活力創造プロジェクトを掲げまして、既存企業の設備投資の環境整備と水素を中心とした企業誘致にも取り組むこととしております。このことが利活用構想の骨子案の策定の背景となります。

次に本市の地域特性を上げておりますが、3点ございまして、1点目は水素関連産業に関してですが、全国有数の水素を製造する企業が存在しており、大量の水素発生量であるとともに、苛性ソーダの製造過程で非常に純度の高い水素が発生するということが地域特性になると考えております。

2点目は、水素の供給大切に関することでございます。本市には、圧縮水素及び液化水素の製造工場がございまして、製造する、貯蔵する、輸送するというシステムが既に確立しているということでございます。

3点目は、燃料電池による実証実験でございまして、平成19年から21年に、

国内で初めて(株)トクヤマ様の副生水素をパイプラインで一般家庭に供給したという実績があることが地域特性と考えられます。

次に、構想の目的ですが、本市の構想目的の目指すまちの姿としまして、水素エネルギーを導入することにより、活力のあるまち、環境にやさしいまち、安心安全に暮らせるまちの実現を目指すとしておりまして、実現するために4つの目標を掲げております。

1点目が市内の企業による水素ビジネスの算入、これによって工業・新産業の振興を図ることが目標でございます。

2点目が水素関連企業を重点的に企業誘致を図り雇用促進を図るものです。

3点目は水素エネルギーを活用し普及促進を図ることによって、低炭素社会の普及を図るというものです。

4点目は、既存のエネルギーや再生可能エネルギー、それに水素エネルギーを加えた様々なエネルギーの利活用による災害に強いまちづくりを目指し、構想を組み立てているところです。

次に水素エネルギーの導入目標ですが、水素の先進市としまして、燃料電池車等や水素ステーションの設置につきまして、これを早期に設置するために導入目標を設置いたします。導入区分としましては、水素ステーション、燃料電池自動車、水素自動車、燃料電池バス、燃料電池タクシー、燃料電池フォークリフト、このほか定置型用燃料電池、それぞれの設置目標台数を設定することを構想目標設定の際に考えていきたい。

次に構想を具体化するための施策展開の方向を3つ上げております。1つ目が水素サプライチェーンの構築でございます。まずは何といたしましても、水素ステーションの誘致でございます。その後、安価で安全で安心できるサプライチェーンを構築することが必要であると考えております。すでに大量の水素を生産する地域でございますし、圧縮水素、液化水素を製造する工場もあるということで、今後は、安価、安定化のために、例えば共同管理や共同貯蔵、共同供給といったものも考えられないか、それをベースにして水素を水素ステーションに供給し、更には家庭等に供給し、水素を使う。また都市ガスのパイプラインを使うなども想定する。また、中心市街地に水素を供給して燃料電池を使う。それに工場や倉庫に水素を送る。他市や他県との連携に水素を使うということも想定しております。また、水素ビジネスの普及、拡大を図るためには、近県との連携が必要と考えております。

続いて2点目ですが、水素エネルギーに限らず、既存エネルギーや再生可能エネルギーなどを含めた総合エネルギー利活用による周南市ならではのスマートコミュニティとして、総合エネルギー利活用によるモデル地区の構築を掲げております。こうしたモデル地区を例えば市内に4か所設置することも想定されまして、徳山東インターチェンジ付近、徳山西インターチェンジ周辺、徳山の中心市街地中心エリア、新南陽駅周辺のエリアなどを想定しながらの展開も考えられるとしている。最後の3点目ですが、水素利活用に向けた新たな環境づくりの構築とい

うことですが、水素エネルギーを利活用することによりまして、貯蔵・輸送するための技術開発、燃料電池の関連具材や部品の開発、水素発電等の検討、水素関連技術の習得、人材育成等や市民、企業の方に対する学習等による普及啓発など、こうした取組をすることによって水素利活用に向けた新たな環境づくりを進めていけたらと考えております。こうした施策の展開を図っていくために、推進体制としまして、市民、事業者、行政、高等教育機関等により検討する会議の設置を考えておりまして、各主体の役割分担を考えながら、構想の実現化を図っていかれたらと考えておりまして、以上が現時点での骨子案でございます。これにつきましてご意見をいただけたらと思います。今後、2月頃に構想案を作成したいと思っております。

(会長) それでは、ご意見をお願いいたします。

(オブザーバー) 水素ステーションとフォークリフトへの水素供給についてですが、燃料電池自動車は70MPa、フォークリフトは35MPaですが、供給側の水素の圧力について、どのような構想をお持ちでしょうか。

(事務局) 水素ステーションについては70MPaを想定しています。フォークリフトの35MPaに対しては、今後の検討課題になると考えている。

(オブザーバー) バスはいかがでしょう。

(事務局) バスも70MPaと認識しております。

(委員) 冒頭の稲葉先生も言われておりましたが、総合エネルギーを地域にというような話がございましたし、骨子案につきましても再生可能エネルギーなどが入ってきて、水素の利活用ということですが、将来を考えて少し幅広な構想かなと思いつつ、最初のところは水素だけというような構想の方が良いのではないかなというような個人的な感想でございます。いろいろ入れると少し複雑になるというか、少しぼやっとするような気もするのですが、その辺りはいかがでしょうか。

(事務局) 水素だけで構想の絵が描けたらと思っておったところですが、いろいろ検討してみますと、水素だけで全てのエネルギーをまかなうのは難しいのかなというところから、総合エネルギーといいますか、いろんなエネルギーを使う中で、この地域の水素エネルギーを活かしていくまちづくりのイメージを持ったところでは、水素が強調されていないかにも見えますけれども、水素を活かしつつ既存のエネルギーも活用するといった絵を描いたところでは、

(会長) 現実的には、優先順位がありまして水素ステーションの誘致が筆頭に来るものと思います。今の意見については、事務局もしっかり考えていただけたらと思います。その他いかがでしょうか。

(副会長) 今後、水素の需要がいろいろあると思うが、どういうメニューでの販売を想定しているのでしょうか。FCV車用に液化水素ガスを売るのか、それとも、圧縮ガスを売るのか、それから今日ありましたように、水素水とか、別の方法による水素販売を行うのか。また、月あたりの売上といいますか、それを、どれくらいにするのかですね、そのへんのビジョンがないとですね、なかなか、難しいんじゃないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

(事務局) 基本的に目指しているのは、液化水素ステーションでございます。液化にすれば物流コストが下がります。そうなれば水素単価も下がってくると予想されますので、そうした意味で液化水素ステーションを考えております。また、需要量の件ですが、実はそこまでのシュミレーションを行ってはおりませんけれども、ただ、座して待つのではなく政策的に水素の需要を増やすことをしなくてはならないと考えておりました、水素バスや水素自動車などいろんな需要が考えられる訳でございます、候補地に水素ステーションを設置することに併せて、需要を増やす取組をしっかりと進めてまいりたいと考えております。

(委員) 水素ステーションの誘致に関しましては、県としましても周南市と一緒に進んでいるということで、県の立場から今の質問にお答え致しますと、まず水素ステーションの交通量やマーケットについては、当然議論としてあるんですけども、水素そのものの値段というよりも、初期は車の値段の方が大きいと考えておりました、水素の値段が安く提供できたとしても車が高いと、そもそも買う人が少ないので、どうしようもない世界であり、そこは、自動車メーカーさんに是非頑張ってもらいたいところでございます。1000万円以下というところですが、野心的に500万円以下にしていただけると大変ありがたい所なのですが、そういう風に思っております、その上で、仮に500万円か600万円か分かりませんが、そのぐらいで販売されたとしても、最初から民間の方が次々と買っていくことは想定されないわけでございます、なかなか難しいだろうと思っております。そうした中で考えますと、ある程度の初期需要は政策的に作っていくことが重要であると考えております。ただその初期需要をどうやって作っていくかが今後の検討になると思いますが、公用車を入れる案もあれば、或いは、付近の企業さんに社用車として入れていただくようお願いを回るとか、或いは、バスは需要があり常に走っているものですので、バスを入れてもらえないかお願いをするとか、或いは車だけでなくフォークリフトを入れていくとかですね、そういう用途を多様化することで初期需要を作っていくという観点で進めていき、燃料電池車が普及してくると、今度は水素ステーションが候補地の所に1ヶ所あるだけでは社会モデルとして回らなくなると思いますので、当然、国の方も社会モデルとして100箇所と言っておりますけど、100箇所では一般人に普及させるにはそもそも心もとないと考えられますので、やはり100箇所というのは初期需要を創出して、まず普及初期として国も考えておりますので、まさにユーザーに普及する過程においては、櫛ヶ浜だけでなく、いろんなところにガソリンスタンド並みには言いませんが、そのぐらいに普及してきて全体の市場マーケットとの間で調和していくものと考えております。

(会長) ほかが質問ありますでしょうか。続きまして、中国経産局並びに山口県からご説明をお願いいたします。

○中国経産局及び山口県（新産業振興課）報告事項について

（委員） 来年度の資源エネルギー庁の概算要求、特に水素ステーションに関する箇所の説明を行います。水素供給設備整備事業費補助金ということで、今年度からスタートしている水素ステーションに対する補助金で、来年度は今年度の約2倍弱となる予算額を要求しております。補助率については、2分の1となっております。また、今年度の交付要綱ですが、参考ということで、補助金の上限額と対象経費の2分の1の低い方の金額が対象となります。中規模350Nm³/h オンサイト方式で2億5000万円、オフサイト方式で1億5000万円となっております。また、申請にあたって事業計画を作っていただくこととなりますが、調査表に自動車メーカーと協議のうえ作成していただくこと。また、地方自治体の、こうした協議会による燃料電池自動車普及促進のための計画を踏まえてこちらの計画を作っていただくことになっております。また、今年度採択された19箇所のリストになります。ほとんどがオフサイト式となっており、オンサイト方式はわずかでございます。また他地域との連携ということですが、中国地方圏におきましては、水素ステーション設置の動きは出ておりませんが、広島県につきましては、2009年から広島大学とか、ものづくり企業さんとか、地元の自治体さんを中心に水素エネルギー研究会を立ち上げさせていただいております。こちらにつきましては、今年度リニューアルしております、新たに活動を開始しているところですが、年明けには関連するセミナー等を開催する予定でございます、できれば意識、啓発等に繋いでいければと考えております。

（会長） 続いて山口県からの説明をお願いいたします。

（委員） 2点ほどございまして、11月14日に国への政府要望としまして、水素利活用による産業振興と地域づくりについて、資源エネルギー庁と国交省に行って参りました。具体的に何を要望したかと言いますと、1つ目は液化水素ステーションの推進ということで、水素ステーションの補助金の適用になるように、液化ステーションの山口県への設置に向けた支援について要望して参りました。加えて、周南のエリアで検討しておりますのは、液化の水素ステーションになるのですが、現在の基準が圧縮水素に対する基準しかございませんので、液か水素のステーションについても圧縮水素と同等の基準を設けてほしいという趣旨の要望をしてまいりました。

2つ目が産業振興に係る技術開発等の支援をしていただきたいということです。そして、3つ目が車だけでなく地域において水素利活用をするために水素ステーションを核にパイプラインを引いたりすることを想定していることから、パイプラインを敷設するにあたっての基準の策定であるとか、或いは、整備に関する支援とかといったことの要望。また、2015年から自動車会社からの販売が想定されていることから、燃料電池車であるとか、バス、フォークリフトの導入にあたっての初期市場創出のための導入支援補助金のようなものを作ってほしいとの要望をいたしました。また、公共施設や集合住宅等への定置型燃料電池に関する導入支援についても引き続きお願いしました。基本的に国側の反応としては、地

域が中心となって取り組んでいることに関しては、大変歓迎するといったことですが、国としても応援していきたいとの主旨の反応をいただいたところでございます。

それと大きく2つ目でございますが、山口産業推進計画を7月に策定しましたが、時間の関係もありますので、今年度の取り組みについて御説明させていただきますが、県では今年度から新たな取組として、液化水素利用製品の試作開発の取組を行っております。1つ目は、液か水素はご存じの通りマイナス253度の冷熱ですので、これが気体になるときの気化熱を回収しまして有効利用していくという観点からの気化熱回収装置の試作開発を行っております。

2つ目は、マツダさんの水素ロータリーエンジンを活用して、コジェネシステムにしていくといった試作開発を進めております。こうした試作開発を通じて県内企業や産業技術センターと連携して県内企業に水素関連製品の開発の促進、産業振興につなげていき、水素需要の創出、需要の喚起に繋がっていくと考えており、そうした観点から試作開発事業を行っております。

県としては水素先進県を目指していく中で、まずは周南市さんと一緒になって産業振興、地域づくりに取り組んでいきたいと考えております。まずは周南市の取組を1つの成功モデルとして、成功させたいと、県としては、周南市の成功モデルを県内の他地域にも将来的には広げていくという考えのもとでやっております。そのためにも、まずもって県内最初のモデルとなる周南市のモデルを是非とも成功に導いていくべく、ここにお集まりいただいております関係の皆様にもご協力をいただければと思いますし、大きな4大都市圏以外の地方の1つの成功モデルとして大きく育てていきたいと考えておりますので、是非ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

(会長) それでは質問がありましたらお願いいたします。時間の関係もありますので、次の周南市利活用計画の策定についての説明をお願いいたします。

○周南市水素利活用基本計画策定（予定）について

(事務局) 利用計画の策定予定について御説明いたします。構想につきましては、今年度の2月中に策定する予定でおります。今後この構想を具現化するために来年度中には、計画と書いておりますけれども調査・研究、それから計画も想定する中で、これを具体化する作業を進めていきたいと考えております。その際には、分科会と言いますか部会のような組織も設置できないかと考えているところでございます。その際には、本協議会の構成員の皆様にもご参加いただけたらと思っております。

なお、前回、第1回目に牧野副会長から、いくつかの分科会を作って協議し、協議会ではそういった報告をすべきではないかということがございましたが、これに関しましては、9月13日にコンビナート企業のメンバーの方に集まっていたきましてご意見を伺ったところですが、企業様からは水素需要を把握すること、市のコンセプトが明確ではないといった意見をいただいております。残念

ながら、その時点で分科会を設置するという方向性は見いだせなかったということでございます。今後は、調査・研究、計画策定をするという段階で必要に応じて分科会的なものの設置を考えていきたいところです。

(会長) それでは以上で本日の協議事項を全て終了したことになります。全体を通じてご質問がありましたらお願いします。

(委員) 実際に建設していくことを前提に進めていった時に、この鼓海の地区に(水素ステーションを)作ったことが将来的にコスト、特にランニングコストとして会社を苦しめていくとは考えられませんか。というのは幹線地区に将来的には水素の自動車が増えた場合に、幹線地区に水素ステーションができてまいります。そうすれば鼓海に作ったものが全てペアになる可能性が非常に高いと思ったのですが、その点どうでしょうか。

(事務局) もちろん、自動車メーカーさんが2015年に(燃料電池車を)導入すると言われましたが、燃料電池自動車がすぐに普及するとは考えていないところです。先程もご説明させていただきましたが、車だけではなく、フォークリフトだとか、幸い候補地の側には企業団地もあります、公共施設もございますことから、そうしたところで水素も活用できるのではないかと考えております。また、積極的に市といたしましても、公用車、或いは、本日ご参加をいただいておりますコンビナートの皆様方にも社用車あたり、或いは、交通関係者の企業得様似おかれましては大型バスの導入といった形で需要を生んでいきたいと考えているところです。

(委員) ガソリンスタンド業界としましては、水素、燃料電池については非常に興味があります。次期の燃料として、エネルギー源として非常に大切なことで、どこの皆様も興味のあることだと思います。で、これを実際に動かしたときに、市も県も協力してくれると思いますが、その姿がもっと見えないとなかなか手が入りられない、協力したいのですが、そして建設もしていきたいのですが、まだまだ見えない。やはりどのくらいの、コストで、どのくらいの利益性なのか、その点をこれから一緒に勉強させていただけたらと思います。

(事務局) 今後も調査・研究をして皆様方に報告していきます。

(オブザーバー) 純水素だけでなく、副生で出てくるそのままを利用するといったことや、他の工場から出てくる排ガスとかそういったエネルギーの活用などは考えられないのでしょうか。

(事務局) 車だけでなく、定置型燃料電池やマツダさんの水素自動車等も活用しながら複合的に水素エネルギーを活用したまちづくりを考えていきたいと思っておりますので、その辺の検討も必要だと考えております。

(連絡事項)

○閉会挨拶

(経済産業部長) 本日は大変お忙しい中、長時間にわたりご審議を頂きましてありがとうございました。先程もご報告させていただきましたが、水素ステーションの候補地を決定させていただいたわけございまして、今後は、こちらへの水素ステーションの誘致を山口県と一体となって取組んでいきたいと思っているところでございます。しかしながら、委員の皆様からご試問が出ましたように、この水素をどうまちづくりに活かしていくのか、水素をどうやって普及させていくのかということも大変重要な課題として認識しております。そういうことで、今後、基本構想を策定させていただきますけれども、委員の皆さんのご支援を頂いて、策定を進めていきたいと思っております、是非とも引き続きご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。